

平成28年度 第1回小平市産業振興基本計画検討委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成28年8月19日（金）午前9時から10時30分まで

場所：小平市健康センター 4階 第2会議室

2 出席者

(1) 委員

8名（木本委員、古田委員欠席）

(2) 市側出席者

滝澤地域振興部長、同板谷産業振興課長、同入澤係長、同鎌田係長、同飯泉

(3) 傍聴者

0名

3 配布資料

資料① 小平市産業振興基本計画検討委員会の構成

資料② 小平市産業振興基本計画策定の基本方針について

資料③ 小平市産業振興基本計画策定までの全体スケジュール（予定）

資料④ 市内産業の現状

資料⑤ 平成28年度 小平市産業振興支援事業一覧

資料⑥ 基礎調査の実施について

資料⑦ アンケート調査及びヒアリング調査の概要

資料⑧ 市民意識調査の調査票

資料⑨ 事業所動向調査の調査票

資料⑩ 農家意向調査の調査票

参考資料 小平市産業振興基本計画検討委員会設置要綱

4 内容(議事要旨)

(1) 市長あいさつ

(2) 委員、オブザーバー自己紹介及び事務局紹介

(3) 委員長及び副委員長の選出

委員長に菊地委員が、副委員長に若林委員が任命された。

(4) 報告事項

① 小平市産業振興基本計画策定の基本方針について

事務局から資料②、③を用いて、計画策定の背景や計画の位置付け、計画策定までの全体スケジュール等について説明をした。

(委員) 関連計画と整合性を図るとあるが、小平市観光まちづくり振興プランや小平市農業振興計画の進捗状況はどうか。

(事務局) 小平市観光まちづくり振興プランは平成26年3月に策定した計画であり、小平市

農業振興計画は、小平市産業振興基本計画の農業分野についてより具体的に示す計画として、本計画策定と同時並行に検討を進めていく。

② 市内産業の現状と支援事業

事務局から資料④、⑤を用いて、経済構造や産業の構成割合、平成28年度に実施している支援事業の概要等について説明をした。

(委員) 立川市が年間商品販売額で群を抜いているのは、IKEAなどの大型店の出店による場所が大きい。大型店の誘致という点では、用地の問題が絡んでくるので、そういう視点で産業振興の作戦を考えることも必要ではないか。また、日野市は製造品出荷額が群を抜いているが、これは日野自動車けん引しているもので、日野自動車が撤退する数年後には大幅に減少するものと思われる。こういう状況を考えると市内の産業振興は第2次産業、第3次産業のバランスが非常に大事だと思う。

(委員) 市内2次産業の構成割合で、電気機械とその他製造業が大半を占めているが、これは大手企業によるところが大きい。第2次産業に属している中小零細企業は非常に少ない。一概に小平市が2次産業に特化しているとは言えないのではないか。

(委員長) 統計などのデータが大手企業があることによって影響を受けているという点は今後計画を検討していく上で注意が必要である。

(ガザバー) 市内産業の現状を説明するにあたって、RESASというシステムから多様なデータが引き出されて使われているが、これは誰でも見ることができるシステムになっている。今後の計画を検討していく上で役立つと思うので、各委員も1度覗いてみて欲しい。

(5) 検討事項

基礎調査の実施について

事務局から資料⑥、⑦を用いて、調査の目的や構成、調査項目等について説明をした。

(委員長) 様々な角度から市内の商工業や農業、観光について意見を出してもらい、課題や論点を抽出することは計画を作っていく上で非常に重要である。しかし、今日初めてこの場で資料⑧、⑨、⑩の調査票に目を通していただいて、すぐに細かな意見は出せないと思われる。資料⑧から⑩は一旦持ち帰ってもらって後日意見を出してもらおうということでお願いしたい。本日の委員会は時間の都合もあるので、資料⑦にある基礎調査の枠組みについて検討したい。

(委員) 市民意識調査の調査対象者が18歳以上の男女2,000人となっているが、単純な無作為抽出では年代層が偏る可能性がある。年代層まんべんなくどういう意見を持っているかを聞いた方が効率的と思うがいかがか。

(事務局) 年代層などに偏りがないように、丁町ごと、さらには年代層ごとの人口分布をもとに、無作為で調査対象者を抽出する。

(委員長) 計画を策定していく上で、基礎調査の内容や構成は最も大事なところ。意見等あれば伺いたい。

(委員) 上位計画であるまち・ひと・しごと創生総合戦略や都市計画マスタープランに住宅都市としての将来像が謳われている。居住環境の良い住宅都市の中で産業振興を考え

- ていくというのは今回の計画の重要なテーマになると思う。事業所と農家向けの調査票にもう少し住宅都市との関わりを聞く質問があってもいいのではないかな。
- (事務局) 事業者にはアンケート調査に加え、ヒアリング調査を行う予定であり、住宅都市と企業との関わりなどについて聞いていきたいと考えている。
- (ガザバー) 小平市の特徴の一つとして、隣町との関係が非常に濃いことが挙げられる。小平市がベットタウンであるが故に、市民がどこに通勤しているのか、どこに魅力を感じているのか、また、市内に通勤してきている企業の従業員の方たちがどこに魅力を感じているのかなどを探っていきたく思っている。委員指摘の趣旨をベースとした調査を実施する予定であるが、より考慮してやっていきたい。
- (委員長) 委員指摘の内容を踏まえたヒアリング調査の項目を考えるということになると思うが、市民意識調査や農家意向調査の項目に委員指摘の内容が踏まえられているかという点を注意してみてもらい、内容が不十分な場合などは意見を事務局に提出してもらいたい。
- (委員) 観光についてまんべんなく尋ねるというのも必要だが、テーマを絞って尋ねるということも大事ではないかと思う。
- (委員) 住宅都市というイメージが強いが故に、中小の商工業者の事業活動を狭めてしまっているところがある。大きなスーパーが何店かあり、緑が多ければ住みよいまちという視点だけでは、中小商工業者の操業の機会を奪ってしまいかねない。住みよいまちであり、また、中小商工業者が事業しやすい環境という共存できる環境を作っていききたい。そういう意味では、事業のしやすさ、しにくさを尋ねる項目があってもいいのではないかな。
- (事務局) 事業所動向調査の問19、20において、小平市の立地上の強み、弱みを尋ねる項目がありここで課題を抽出できればと考えている。
- (委員長) 委員から指摘のあった、市民意識調査の項目の観光の部分について、テーマを絞った質問項目があってもよいのではという指摘についてはどうか。
- (事務局) 観光に関しては、平成26年3月に小平市観光まちづくり振興プランを策定した際にアンケート調査を実施しており、その結果等を活用し課題の抽出などができればと思っている。また、世論調査や都市計画マスタープランのアンケート調査などでも観光について尋ねているので、その点も活用できればと考えている。
- (委員長) 農家意向調査に関しては、配布から回収にいたるまでJAに頼り切る感じとなってしまっているが。
- (委員) 以前から打診があり、小平市農業振興計画の策定にも関わることであるので内部体制を整え対応する。
- (委員長) 市民の立場から意見をお願いしたい。
- (委員) アンケート調査は若年層からどの程度帰ってくるのか。時間に余裕がある高齢者の回収率が高いとすると、年代層に偏りが出てしまうのではないかな。
- (委員長) 過去のアンケート調査などの回収率はどのような感じか。
- (事務局) 商業に関するアンケートだと平成13年まで遡ることになるが、その時は40～50%程度。最近のまち・ひと・しごと創生総合戦略や都市計画マスタープランで実施

したアンケート調査では30%前後となっている。インターネットを活用した方法も検討したが、個人情報などのセキュリティの問題もあり実施は難しい状況となっている。そういう状況の中、回収率向上に受けた取り組みとして、当初50問近くあった質問数を21問まで削り、回答者の負担をできる限り減らした。

(委員) 日々の生活の中で感じている子育てしやすいか、暮らしやすいか、また、高齢者が生活しやすいか、地域とつながりがあるかという点については質問項目に盛り込まないのか。

(事務局) 子育てしやすいか、暮らしやすいかなどについては、まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるアンケート調査で多く尋ねていること、また、都市計画マスタープランにおける2回のアンケート調査でも尋ねていることから、調査項目が重複しないようにするために今回の調査項目には入れていない。ただ、こういった視点を取り入れないというのではなく、これら他のアンケート調査の結果は必要に応じ活用していきたいと思っている。

(委員長) この調査票に載っていない項目であっても、必要あれば他のアンケート調査の結果などを活用していくということによいか。

(事務局) その通りである。

(委員長) 基礎調査の各項目について少しずつ改良すべき点があるかもしれないが、大枠では問題ないということなので、資料⑥、⑦の通り進めていきたいがよいか。

(委員) 異議なし。

(6) その他

① 次回の日程

事務局から、第2回検討委員会は12月中旬頃に開催する方向で日程調整を進め、できる限り早めに各委員に連絡する旨、説明した。

② アンケート調査に係る調査票に対する意見の提出期限について

事務局から、資料⑧から⑩までの調査票に係る意見について、調査票の印刷や発送手続きなどがあるため、締め切りを8月29日(月)までとしたい旨、また、様式は自由で提出方法はメール、電話、FAXどれでも可である旨、説明した。

(委員長) アンケート調査の調査票に対する意見の提出期限が8月29日までということで、あまり時間的な余裕はないが、協力いただけるか。

(委員) 異議なし。

(委員長) 各委員から出た意見は事務局で取りまとめ、本来ならば委員会の場で議論すべきところではあるが、時間的な制約があるため、意見を調査票にどのように反映させるか等については、私に一任いただきたいがよろしいか。最終的な調査票は、市民等への発送前に必ず委員に送付する。

(委員) 異議なし。

(委員長) それでは、第1回検討委員会を終了とする。

以上